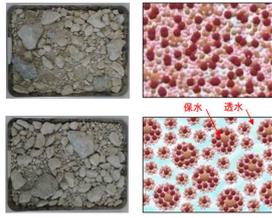


「グリーンインフラ創出促進事業」公募の選定結果について

- 民間企業が有する新たなグリーンインフラ技術の実証を行う「グリーンインフラ創出促進事業」の公募を行い、審査の結果、4事業を選定しました。
- 今後、当該技術等を用いて、実証フィールドでの検証を行い、その実用可能性などをとりまとめる予定です。

応募者	応募名称、開発技術の概要	
全国トース 技術研究組合	<p>対象技術：Ⅰ：防災・減災に係る雨水浸透技術</p> <p>応募名称：透水性保水型路盤を用いた「アーバン・グリーンダム」プロジェクト</p> <p>現在、多くの歩道で採用されている透水性舗装については、時間の経過とともに透水性の低下が懸念されるなどの問題が生じている。このため、透水性能・保水性能等の継続的な確保を目指して、路盤材を団粒構造に改良する技術の効果を検証する。[実証フィールド：徳山工業高等専門学校内（山口県周南市）]</p>	 <p>(一) 単粒構造 (二) 団粒構造</p> <p>単粒構造と団粒構造の比較(イメージ)</p>
東邦レオ 株式会社	<p>対象技術：Ⅰ：防災・減災に係る雨水浸透技術</p> <p>応募名称：仮設式レインガーデンによるグリーンインフラの多面的機能の検証 -雨水貯留機能・生物多様性・コミュニケーション-</p> <p>グリーンインフラを初めて導入する際の合意形成等のプロセスにおいて、定量化データ等を収集するための簡易な整備手法が求められている。このため、仮設式のレインガーデンの設置やアプリケーションの活用などにより地域主体の参画を促す仕組を実証する。[実証フィールド：近江富士花緑公園内（滋賀県野州市）]</p>	 <p>設置イメージ</p> <p>仮設式レインガーデンの構造概要と設置例</p>
東急建設 株式会社	<p>対象技術：Ⅱ：定量的な効果のモニタリング技術</p> <p>応募名称：大型商業施設における雨庭・バイオスウェルの雨水流出抑制効果のモニタリング</p> <p>雨水流出抑制効果を期待して設置された雨庭（レインガーデン）等について、運用開始後の性能を評価した事例は殆どなく、社会的な価値が明らかにされていない。このため、面的なモニタリングを実施し、商業施設「グランベリーパーク」をはじめとする多くの開発主体の参考となる雨水流出抑制の効果を検証する。 [実証フィールド：グランベリーパーク内（東京都町田市）]</p>	 <p>グランベリーパークに整備された雨庭 (写真提供：東急株式会社)</p>
清水建設 株式会社	<p>対象技術：Ⅲ：上記以外でグリーンインフラに関する技術</p> <p>応募名称：低未利用地のインフラ機能を高める水のアクティブ制御技術</p> <p>気候変動に伴う水害リスクが増加する中、人口減少、少子高齢化を背景に、全国各地で閑地や遊休農地等の低未利用地も増加している。このため、「水のアクティブ制御」により低未利用地を活かした低コストで土地を有効活用する技術を実証する。[実証フィールド：印旛沼高崎川流域内（千葉県富里市）]</p>	 <p>実証フィールドとなる休耕地</p>

添付資料

- (別紙1) グリーンインフラ創出促進事業 公募要領
- (別紙2) グリーンインフラ創出促進事業 公募チラシ

〈問い合わせ先〉

国土交通省総合政策局環境政策課 担当：和田、末原

TEL：03-5253-8111（内線 24331、24332）、03-5253-8262（直通）